

規格会計国際規格

(昭和52年4月1日～昭和53年3月31日)

収入の部 (単位: 円)

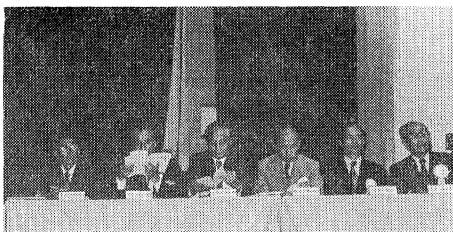
費 目	金 額
業 界 分 担 金	17,664,770
自 動 車 技 術 会 負 担 金	1,420,000
雑 収 入	42,536
繰 越 剰 余 金 繰 入	2,322,694
合 計	21,450,000

支出の部

費 目	金 額
印 刷 費	1,090,000
海 外 出 張 旅 費	10,220,000
共 通 事 務 費	7,361,200
そ の 他 の 経 費	2,778,800
合 計	21,450,000



第31回通常総会であいさつを行う
豊田章一郎会長



第31回通常総会、右から大
東副会長、服部監事、藪田
・石原・田中・根本の各担
当理事

第 27 回 自動車技術会賞授賞式

日 時: 昭和52年5月18日(水) 16:10~16:30

会 場: 東条会館ホール

賞 : 学術賞1件(トヨタ自動車工業株式会社)

技術賞2件(株式会社本田技術研究所, 日産自動車株式会社)

授賞式は豊田会長のあいさつに引続き
審査委員長の審査経過報告が行われたの
ち学術賞1件, 技術賞2件に授与された。
(学術賞)

●排出ガス特性, 燃料消費と運転性の研究

中田 雅彦君

昭和16年12月14日生れ。42年東工
大理工学部機械工学科(修士)卒,
トヨタ自工入社。第4技術部第8
エンジン課係長。

小林 伸行君

昭和23年7月3日生れ。46年東大
工学部舶用機械工学科卒, トヨタ
自工入社。第4技術部第8エンジン
課技術員。

(授賞の理由)

近年, 自動車排出ガスが強化されるに
つれて, 排出ガス対策を施すことによる
自動車の燃料消費, 運転性の悪化を最少
限に防止することが一つの大きな課題と

されてきた。排出ガス, 燃料消費, 運転
性の3特性をバランスよく確立させると
き, 車両サージは特に重要な課題の一つ
である。今回の研究は車両サージとエン
ジン特性の解明を行い, その要因を明ら
かにし, また評価判定に従来の人間の官
能評価法での不確定要因を取除いた計器
による定量的評価法を開発, これを用い
て排出ガス, 燃料消費, 運転性の3要素
の定量的バランスをとるための一手法を
確立した。

本研究により排出ガス対策車の車両総
合評価がより客観的, 定量的になされる
ことが期待されて, 車両総合性能の向上
に大きく寄与するものと考えられ, その
成果は高く評価できる。

(技術賞)

●車速応動型パワステアリングの開発

西川 正雄君

昭和12年2月4日生れ。38年3月

東大工学部機械工学科卒, 本田技
術研究所入社。主任研究員。

利光 吉彦君

昭和19年11月25日生れ。42年3月
九大工学部航空工学科卒, 本田技
術研究所入社。研究員。

青木 隆君

昭和28年1月10日生れ。48年3月
沼津高等専門学校機械科卒, 本田
技術研究所入社。研究技術員。

(授賞の理由)

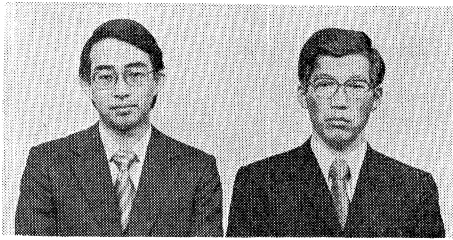
車速応動型パワステアリングの開発に
よつて世界に先んじて大衆小型車へのパ
ワステアリングを実現させ商品化に成功
したことは, 今後の自動車設計構想に大
きな影響をおよぼす画期的な開発である。

(技術賞)

●高速ガスタービンバスの開発

木下 啓次郎君

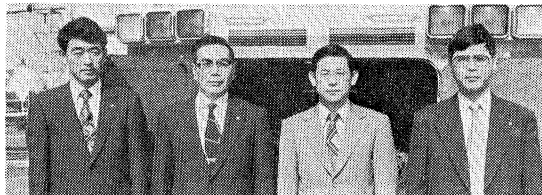
昭和2年3月4日生れ。24年3月



学術賞受賞者
右から 中田・小林の両君



技術賞受賞者
右から 青木・西川・利光の各君



技術賞受賞者
右から 住・仲西・木下・山崎の各君

東北工学部工業力学科卒、日産自動車入社。新動力研究部長。
山崎 慎一君

昭和13年4月8日生れ。36年3月東北工学部精密工学科卒、日産自動車入社。中央研究所主任研究員。

仲西 啓一君
昭和14年5月15日生れ。38年3月東大工学部航空学科卒、日産自動車入社。中央研究所研究技術員。

住 泰夫君
昭和14年11月29日生れ。39年3月大阪府大工学部機械工学科(修士)卒。日産自動車入社。中央研究所研究技術員。

(授賞の理由)

多年にわたる研究により、国産技術による自動車用ガスタービンの開発を行い、実用テストの段階に達した業績はいちじるしく大きい。

開発ガスタービンを搭載した高速バスは低公害で無振動などエンジンの特長を実証することができ、新動力開発の進歩に資すること大である。

この高速バスは運輸省において国内最初ガスタービン自動車として登録が認められた。その意義はきわめて大きい。

昭和52年度 春季大会

昭和52年度春季大会は5月17日(火)～19日(木)東京「東条会館」で開催された。

- (1) 第31回通常総会(別記事)
- (2) 第27回自動車技術会賞授賞式(別記事)
- (3) 学術講演会(講演発表題目)
2会場で27講演が行われた。なお座長

には三田省吾、徐 錫洪、五味 努、酒井靖郎、大島雄次郎、志水 稔、染谷常雄、松岡 信、樋口健治、中桐 滋、佐藤 武の各氏が担当された。

(4) 特別講演会
第27回自技会賞受賞内容のうち学術賞「排出ガス特性、燃料消費と運転性の研究」について中田雅彦、小林伸彦君(ト

ヨタ自工)が講演された。

- (5) 見学会。()内は参加者数
日産自動車・栃木工場(117名)
日野自動車工業・本社工場(134名)
ブリヂストンタイヤ・東京工場(63名)
日本特殊陶業・本社工場(31名)
トヨタ自動車工業・上郷、高岡工場(104名)

▶第3回評議員会

昭和52年4月15日(金)18:00～18:30
名古屋観光ホテルにおいて開催。

出席評議員: 豊田、大東、荒川、神田、
齋田、石原、田中、根本、藤田、芹

沢、青木、樋口、中村、景山、神月、
五味、志熊、島田、鈴木、藤野、弓削、
亙理、大塚、北野、為田、内藤、
野崎、長谷川、村田、森崎、横井、
尾野、服部、森、横山、青木、入谷、

魚住、大野、箕、小室、鈴木、関、
関田、田中、成美、森田、小田柿、
山田の各評議員。

委任状提出評議員: 100名
(議事)